環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業



モニタリングサイト 1000 里地　調査マニュアル

哺乳類

Ver.5.0 (2026. Nov.)

植物相
鳥類

中・大型哺乳類

カヤネズミ
カエル類
チョウ類
ホタル類
植生図

環境省　自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

公益財団法人
日本自然保護協会
Nature Conservation Society of Japan

哺乳類調査

目　　的	里地の生態系ピラミッドに大きな影響を与える中・大型哺乳類を長期的にモニタリングすることで、哺乳類相を支えているサイト周辺も含めた広域的な地域の自然環境の変化を把握します。
時　　期	5 月～10 月頃（全国比較が可能な、落葉広葉樹林の展葉後～落葉前の時期）
調査方法の概　　要	赤外線センサー付き自動撮影カメラ 3 台を、森林内の獣道など哺乳類が通過していると思われる場所に設置し、約 1 ヶ月ごとに回収を行い電池交換などのメンテナンスをした上で再設置します。 カメラから写真データを回収し、写真に写った中・大型哺乳類を同定します。
必要な道具	□　デジタル式自動撮影カメラ撮影キット 2013 年 ～ FieldNote DUO（DMC-FT 3） 2018 年 ～ Ltl-Acorn6310W 2023 年 ～ Ltl-6210WMC ※事務局から貸与します。 □ SD カードおよび単三充電池（エネループ 4 本）、充電器 ※事務局から貸与します。 その他 □ 白地図（1 /25,000～1 /5,000 程度の縮尺。 3 ページに見本があります。） □ 筆記用具 □ 野帳やホワイトボード （調査開始時に調査条件を書いて撮影するため。詳細は 5 ページを参照してください。）
提　出　物	年に一度（翌年 1 月末） □　①各回の調査におけるカメラ設置地点を記入した地図 （3 ページ参照。できれば JPG 形式などの電子データとして提出してください。SHP 形式や KML 形式などの各種 GIS ソフトの形式でも構いません。） □　②写真データ一式 （事務局指定の Box フォルダへアップロード、データを書き込んだ CD-R の郵送、Box 以外のオンラインストレージ等で提出してください。） □ ③調査結果を入力した電子データ（9 ～11 ページ参照） ※ NACS-J から配布する「結果入力用フォーム」（Excel 形式）を使用。 ※ 上記の②③は、「中・大型哺乳類調査結果入力用フォーム入力支援アプリ」を使用することで、提出用 ZIP ファイルとして自動生成されます 提出方法 連絡担当者が他の調査項目の結果提出と一括して行い、翌年 1 月末に一年分（5 月～10 月）を提出してください。

はじめに

中・大型の哺乳類は、他の分類群に比べて体のサイズが大きく、生態系ピラミッドの中でも中位～上位に位置するものも多いことから、植生の構造や食物連鎖の形を変えることで生態系に大きな影響を及ぼしている分類群です。最近では、アライグマ・ハクビシンなどの外来哺乳類が侵入し、在来哺乳類とのエサをめぐる競争や在来動植物の捕食による生態系への悪影響が懸念されています。また、温暖化や狩猟圧の低下により、シカやイノシシなど特定の在来種が過度に増加することで生態系が大きく変化することも問題になっています。

中・大型哺乳類は、生態系ピラミッドに大きな影響を与える一方で、他の動物に比べてより豊富なエサ資源・十分な面積の生息場所を必要とするのも特徴です。言い換えれば、ある地域の中・大型哺乳類相は、その周辺地域の生態系の豊かさや環境変化に影響されていると言えます。

この調査では赤外線センサー付き自動撮影カメラを用いて中・大型哺乳類の種類や撮影頻度の変化を長期的にモニタリングします。そして、それを通じて哺乳類相を支えているサイト周辺も含めた広域的な地域の自然環境の変化を把握します。



写真：屋外に設置した赤外線センサー付き自動撮影カメラの様子

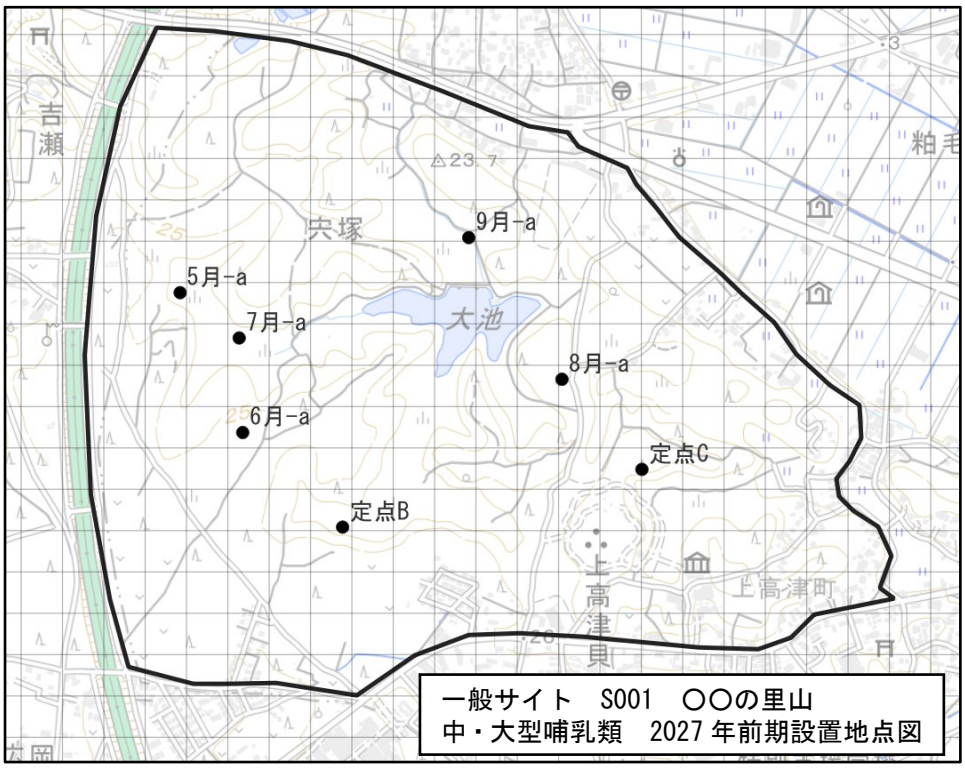
調査地点の設定

調査地点の設定

自動撮影カメラ３台を、それぞれ別の場所に設置します。森林内の林道や獣道・水路沿いなど、哺乳類がよく通過していると思われる場所を調査地点として選んでください※1。

調査サイトに生息する中・大型哺乳類相を把握することが第一の目的ですので、サイト内のなるべく離れた場所に設置し、少なくとも 100m 以上は離してください。植生や地形の異なる様々な場所に設置できるとなおよいでしょう。カメラが設置できるような森林が狭い場合や、獣道が少ない場合には隣接した場所に設置しても構いませんが、データ集計では同じ場所に属するデータとして処理されることもあります。

調査地点（カメラ設置場所）が決まったら、地図に位置を明記します。一枚の地図に一年間の全ての調査地点を記入してください。



調査地点設定の例　　図中の格子線は 100m 間隔

カメラ A は試行段階で毎月変更し、カメラ B と C は定点で設置している状況を示す

※1　最終的には定点撮影での調査とします。はじめの１～２年はカメラの設置場所をいろいろと変えてみて、定点調査に適した候補地点を選定するようにしてください。

調査と記録の方法

※　ここでは、2018 年以降に使用している機種「Ltl-Acorn6310W」「Ltl-6210WMC」を想定して記述しています。機種の変更があった場合には、事務局で別途、その性能や設定に応じた機種の操作マニュアルを用意しますので、それに従い準備や設置を行ってください。

カメラの準備（屋内）

●詳細は別途作成している操作マニュアルを参照してください。

●室内にてカメラに SD カードと電池をセットし、内蔵時計を現在時刻にセットします※1。

●次に、撮影モードを「静止画」※2、インターバルを「２分」※3にするなどの設定を行い、テストモードで写真に「時刻、撮影日」が写し込まれているか確認します。

●最後に電源を切ってカバーを閉め、準備完了です。

カメラの設置（屋外）

●立ち木等を利用して、カメラを地上高１～1.5m の高さにベルトで固定します。夜間撮影で使用する赤外線ライトの有効距離は 13.5m ありますが、撮影された対象が遠くなると種の同定が困難になるため、およそ５m 範囲内を通過する哺乳類にのみセンサーが反応するように、地面に向けて俯角をつけて設置してください。また写真での同定を容易にするために、獣道の進行方向に対して直角に撮影されるよう設置してください。

●カメラは赤外線感応式なので、直射日光が当たり熱せられた葉などが撮影されることがあります。森の中であっても、時間により直射が差し込むような場所や木漏れ日が当たるような場所は避けて設置しましょう。

●撮影枚数が極端に少ない場合や日だまりの撮影が生じる場合、獣道の位置が変化した場合などには、カメラの設置位置を変更してください。

●カメラ底面の電源を入れると、約 10 秒後（カメラの正面の LED「照度センサー」が 10 秒間赤く点滅した後）に撮影が始まります。（Ltl-6210WMC の場合３秒程度赤く点滅）

※1　時刻の設定はこの調査で最も重要な部分です。撮影日が写らないと正式なデータではなくなってしまうため、説明書をよく読んで正しくセットしてください。

※2　動画はこの調査では扱いません。必ずモードが「camera（静止画）」になっているか確認してください。

※3　同じ個体が連続して撮影されないように、カメラは１度撮影されるとその後２分間はシャッターがおりない設定とします。



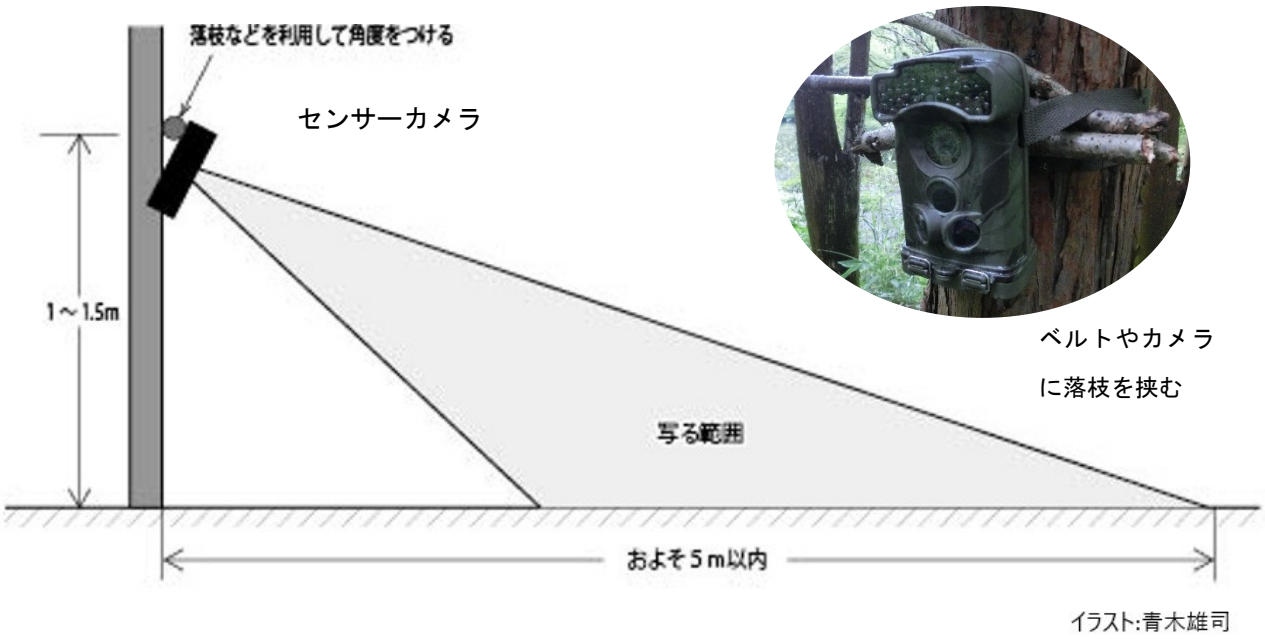
※ 調査機材を野外に置いたままとするため、盗難の可能性は十分にあります。もし盗難にあっても、調査者の責任ではないことを他の調査者も含めて認識しておきましょう。盗難防止も兼ねて、カメラを設置する際には動物調査中であることが分かる札（ラミネート処理すると便利）も一緒につけておくと良いでしょう。必要な方は事務局までお知らせください。

※ カメラが破損したり、盗難が生じた場合には、故障・破損・紛失届を記入の上、事務局までご報告ください。

撮影方法および回収（屋外および屋内）

●調査期間は全国的な比較が可能な、落葉広葉樹林の展葉後～落葉前にあたる 5 月から 10 月頃までを基本とします。

●（屋外）カメラを以下の図のように設置します。撮影準備が整ったら、調査期間※1 を記録するため、最初にサイト名、調査地点名・調査開始年月日が分かる野帳と担当者の姿を撮影してください。



センサーカメラ設置のイメージ

5m 以内の場所が写るように落枝などを利用して地面に向けてカメラを傾ける

●（屋外）約 1 ヶ月後にカメラの回収を行います※2 ※3。回収の際には、カメラが終了しているかどうか手をかざして確認し、調査の終了時間を写真に写し込みます。

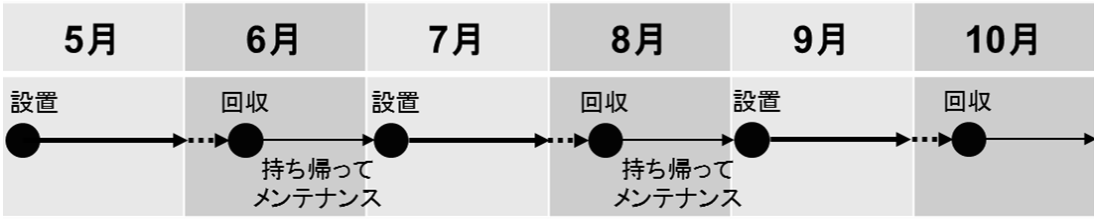
●（屋内）カメラ回収後、室内でカメラの水分を拭き取って軽く乾燥させ、埃などを払ってから SD カードと電池の交換を行います。

●（屋内）SD カード内の写真ファイルをパソコンに保存します。設置地点ごとにフォルダを分けて保存してください。フォルダ名(以下、フォルダ ID)は以下のように統一してください。

例）S999 のサイトで 2025 年 5 月 10 日から地点 A で撮影を開始した写真データの場合
→フォルダ ID「S999_250510_A」

●前回の回収から 1 ヶ月ほど期間をおいてから、再度カメラを野外に設置します※4。設置の前に、毎回 SD カードをフォーマットし、カード内のデータを消去してください。

※1　電池が切れていないカメラが設置された実質的な撮影期間
※2　設置期間はなるべく長いほうが好ましいですが、電池の最大寿命は 45 日程度です。
※3　カメラは湿気に弱いため、野外での電池等の交換は避け、必ず回収し室内でメンテナンスを行ってください。
※4　回収～設置の間隔は数日でも問題ありません。



表：一年間の作業の流れ（例）

同定の方法（屋内）

●保存した写真ファイルを基に、中・大型哺乳類調査結果入力用フォーム入力支援アプリを使用して写真ファイルからフォルダ ID、写真ファイル名、月、日、時刻名などのデータ項目を「結果入力用フォーム V6」に取り込んでから、調査員が一次同定を行います。同定対象種と入力する標準和名については、7 ページの表に従ってください。種の同定は、同定が確実な中・大型哺乳類で行います※5。鳥類や他の動物、撮影ミスなどの写真の同定は分かる範囲で結構です（写真はすべて事務局までお送りください）。

●外来生物法で指定された生物（13 ページリスト参照）が初めて確認された場合には、速やかに事務局にご報告ください。

※5　小型哺乳類など同定が困難な種は、結果入力用フォームにて、該当する写真の最終同定依頼をしてください。（10 ページ参照）

	分類群	種名	分布				備考
			北海道	本州	四国	九州	
同定・入力対象	哺乳類	ニホンザル		○	○	○	
		キツネ	○	○	○	○	キタキツネを含む
		タヌキ	○	○	○	○	
		ヒグマ	○				
		ツキノワグマ		○	○		
		テン	○	○	○	○	北海道は本土からの人為的移入
		クロテン	○				エゾクロテンの別名（母種名）
		イイズナ	○	○			
		オコジョ	○	○			
		アナグマ		○	○	○	
		イノシシ		○	○	○	イノブタを含む
		ニホンジカ	○	○	○	○	エゾシカ、他の亜種含む
		カモシカ		○	○	○	
		ユキウサギ	○				
		ノウサギ		○	○	○	トウホクノウサギ含む
		キタリス	○				エゾリスの別名（母種名）
		ニホンリス		○	○		
		シマリス	○				
		イヌ	○	○	○	○	ペットや野生化した個体
		ネコ	○	○	○	○	ペットや野生化した個体
		カイウサギ	○	○	○	○	ペットや野生化した個体
		タイワンリス		○		○	外来種
		ヌートリア		○	○		外来種
		ハクビシン		○	○		外来種
		アライグマ	○	○			外来種
		キョン		○			外来種
		ミンク類	○				アメリカミンクやその養殖個体。外来種。種名は備考欄に。
		イタチ類	○	○	○	○	イタチおよびチョウセンイタチを含む。種名は備考欄に。
		コウモリ類	○	○	○	○	種名は備考欄に。
		ネズミ類	○	○	○	○	種名は備考欄に。
		哺乳類（同定不能）	同定のできない哺乳類の場合に入力				
任意	鳥類	鳥類	種名を入力する場合や、同定不能の場合は備考欄に。				
	その他	他の動物	両生類、爬虫類、昆虫やクモ等の場合に入力。種名は備考欄に。				
	集計対象外	調査員	撮影開始時・終了時に撮影された調査担当者の写真に対して入力。				
		ヒト	調査担当者以外の人間が写った場合に入力。				
		撮影ミス	日溜まりや植物体など動物以外の物体に反応して撮影された場合、またはストロボ反応不良やフラッシュが届いていない場合（FieldNoteDUO のみ）に入力。				
	不明	同定不能	被写体は認識できるが同定ができない場合に入力。				
		不明	被写体が確認されず、撮影ミスかどうかもわからない場合に入力。				

※ 上記にない種は、種名や分類群名(科名や属名など)を入力し、備考欄に新出であることを記入してください。

※ 調査で初めて確認される外来種や交雑種の可能性がある個体については、特に備考欄にその状況を記入してください。

※ 同定に自信がない場合は種名の横に「？」を入力してください。哺乳類以外については無理に同定する必要はありません。

※ 種名については「日本産野生生物目録　脊椎動物編」（環境省 1993）を参考に作成しました。

調査結果の入力

●結果入力用フォーム入力支援アプリ（以下、アプリと呼ぶ）を使用して写真ファイルから、フォルダ ID、写真ファイル名、月、日、時刻名などのデータ項目を「結果入力用フォーム V6」へ取り込み、写真を参照しながら種名、個体数などを入力し、下図の手順に沿って提出してください。

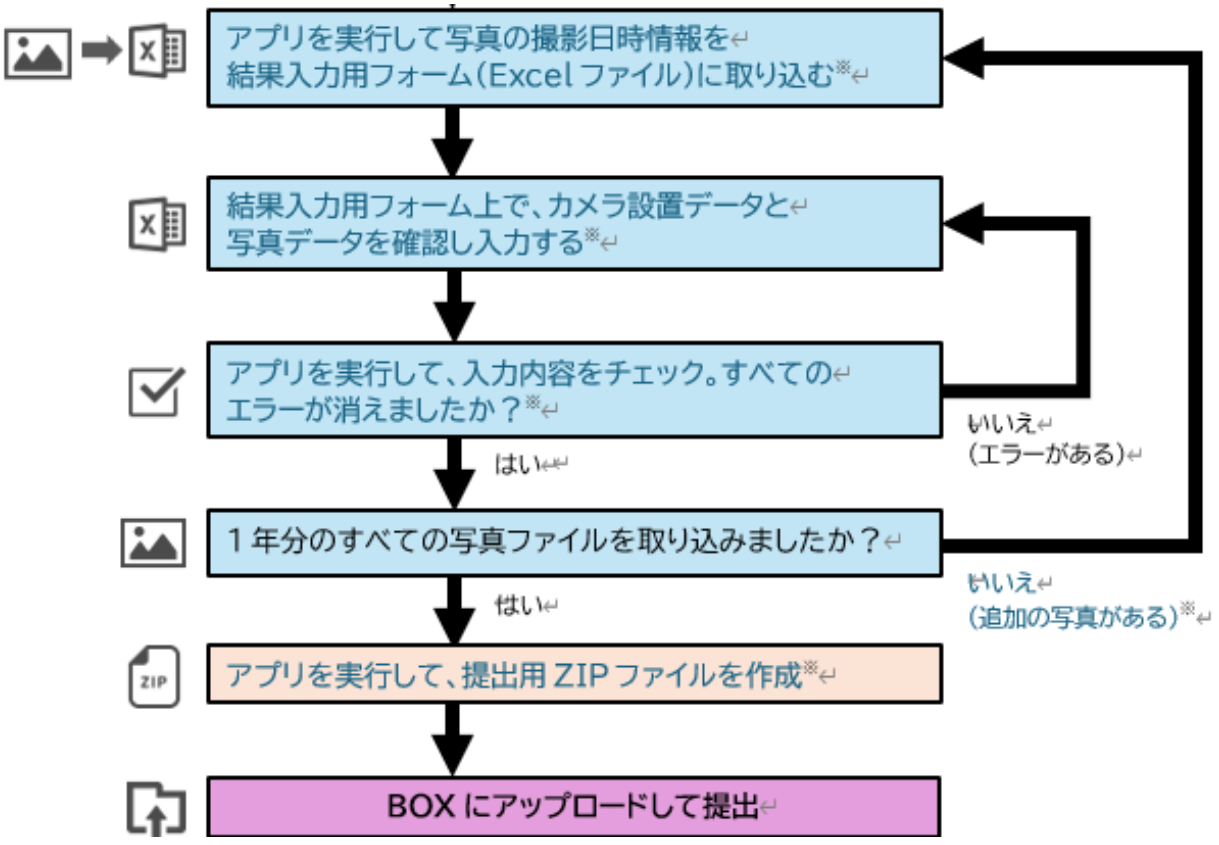
※注意事項

・「結果入力用フォーム V6（Excel ファイル）」はアプリの使用が必須です。

・アプリの動作環境：Windows11 以上

・アプリの使用方法は、「中・大型哺乳類調査結果入力用フォーム入力支援アプリ操作マニュアル ver.1.0（Windows 用）」をご参照ください。

・アプリの利用が難しい場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。別の結果入力用フォームをご案内いたします。



中・大型哺乳類調査結果入力用フォーム入力支援アプリを使った調査結果入力、データ提出までの大まかな流れ

●写真データの同定結果は、【写真データ】シートに、それぞれのカメラ設置期間の調査条件の情報は、【カメラ設置データ】シートに入力します。

●一年分（５月～10 月）のデータを同じワークシートに続けて取り込み、入力します。

●調査期間を通じた環境変化の記録は【地点と環境変化】シートに入力します。

●統一されたファイル名が以下のように自動生成されて入力されます。

例　S001_哺乳類 27.xlsx

・サイトの種類（一般 S、コア C）
・サイト番号
・_哺乳類（半角アンダーバーと調査項目名）
・調査年の西暦下２桁

●アプリを使用して、入力を終えた結果入力用フォームと写真ファイルを提出用 ZIP ファイルとして自動生成し、Box アップロードにて一年に一度連絡担当者を介して提出します。一年分（5 月～10 月）のデータを一つのファイルに入力して、翌年 1 月末までに提出してください。

入力時の注意

※詳細は結果入力用フォームの【入力例と入力エラー例】シートをご確認ください。

＜【地点と環境変化】シートの入力＞

●全調査場所を対象に、過去およそ一年間に見られた環境の変化について、項目ごとに「変化の有無」を記入し、変化した内容や気づいたことは「備考」に入力してください。

モニ1000里地 中･大型哺乳類調査【地点と環境変化】シート　ver.6.00

※がついた項目は必ず入力してください

■ 基本情報	サイト番号※	S999
	サイト名	○○の里山
	調査年※	2027

■ 調査地点について	調査地点の変更の有無※	調査地点の変更理由
	無	

■ 環境変化	環境変化の有無※	備考（変化した内容、気づいたことなど）
	有	アライグマの撮影が増えている。今年はキツネの撮影枚数が少ない。

【地点と環境変化】シートへの入力例

＜【写真データ】シートの入力＞

❶ **※印が付記された項目**：「必須項目」ですので、もれなく入力してください。

❷ **フォルダ ID、写真ファイル名、月、日、時刻**：アプリにより自動入力されます。

❸ **種名・？**：同定した哺乳類の種名を 7 ページの表に基づいて入力してください。同定に自信のない種は種名の横の「？」を、専門家への同定をお願いしたい場合には「同定依頼」を選択してください（「？」と「同定依頼」両方とも専門家への同定依頼を行います）。哺乳類以外のデータは任意ですが、 7 ページの表に合わせて入力してください。

❹ **個体数**：❸で入力した種が写真に写っている個体数を入力してください。なお、哺乳類以外の他の動物や調査員が写った写真や、撮影ミスの場合は個体数ではなく、データ数としての「1」を入力するようにしてください。

❺ **調査員備考**：被写体について、気付いたことがあればここに入力してください。特に、地域で新たに確認された外来種については、その状況を入力してください。

※なお、 1 枚の写真に 2 種以上の種が撮影された場合、アプリを使って行を追加してから結果を入力します（詳細な入力方法は、「中・大型哺乳類調査結果入力用フォーム入力支援アプリ操作マニュアル ver.1.0（Windows 用）」14 ページを参照ください）。

モニ1000里地 中･大型哺乳類調査【写真データ】シート　ver.6.00

■ 基本情報

サイト番号	S999
サイト名	○○の里山
調査年	2027
調査主担当者※	❶○○山ポン太
備考	昨年の台風により調査地点までの道のりが閉鎖されたため、5月と7月の地点Cは未調査

←灰色の行を削除する場合は[削除]を選択、アプリ実行後「写真の取込・データチェック」を選択すると削除されま

■ 写真データ　※がついた項目は必ず入力してください

❷ ❸ ❹ ❺

フォルダID※	ァイル固有ID	納フォルダ	パス	写真ファイル名※	月※	日※	時刻※	種名※	?	個体数※	調査員備考
S999_260519_A	a21981e5	S999_20	S999_260519	IMAG0001.JPG	5	19	15:08	調査員		1	
S999_260519_A	82d8218f	S999_20	S999_260519	IMAG0002.JPG	5	19	15:12	キョン		1	
S999_260519_A	196b6db8	S999_20	S999_260519	IMAG0003.JPG	5	19	18:24	ノウサギ		1	
S999_260519_A	266bf4d5	S999_20	S999_260519	IMAG0004.JPG	5	20	5:06	タヌキ		2	
S999_260519_A	49ae84fd	S999_20	S999_260519	IMAG0005.JPG	5	20	5:52	哺乳類（同定不能）	同定依頼	1	
S999_260519_A	d41a37b6	S999_20	S999_260519	IMAG0006.JPG	5	20	23:13	ネズミ類	?	1	
S999_260519_A	d23aa1c3	S999_20	S999_260519	IMAG0007.JPG	5	19	14:48	イタチ類		1	
S999_260519_A	8800154	S999_20	S999_260519	IMAG0008.JPG	5	19	14:50	撮影ミス		1	
S999_260519_A	7f88dfbb	S999_20	S999_260519	IMAG0009.JPG	5	19	18:03	鳥類		1	アオゲラ
S999_260519_A	3f07a43d	S999_20	S999_260519	IMAG0010.JPG	5	20	3:57	イノシシ		2	
S999_260519_A	3f07a43d	S999_20	S999_260519	IMAG0010.JPG	5	20	3:57	イタチ類		1	
S999_260519_A	ac655b7a	S999_20	S999_260519	IMAG0011.JPG	5	20	15:26	同定不能	同定依頼	1	
S999_260519_A	c888447	S999_20	S999_260519	IMAG0012.JPG	5	21	13:38	調査員		1	

【写真データ】シートへの入力例

＜【カメラ設置データ】シートの入力＞

❻ **フォルダ ID、写真枚数、使用機材、カメラ設置_地点名、設置日時、回収日**：アプリにより自動入力されます。誤りがないか確認してください。

❼ **終了形態**：カメラ回収時に電池が切れるなどしてカメラが作動していなかった場合は「回収前に終了」、切れていなかった場合は「回収時に終了」を入力してください。

❽ **終了日時**：❼終了形態が「回収前に終了」であれば最後の写真の撮影日時を、「回収時に終了」であれば、カメラ回収時に自分の手をかざして撮影した写真の日時を入力してください。

モニ1000里地 中・大型哺乳類調査【カメラ設置データ】シート　　ver.6.00

←灰色の行を削除する場合は[削除]を選択（アプリ実行後「入力を見直す」を選択すると削除されます）

■ カメラ設置データ　　※がついた項目は必ず入力してください

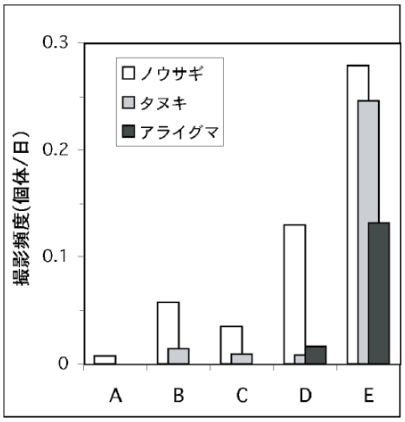
フォルダID※	写真枚数	使用機材※	カメラ設置 地点名※	設置日時※ 月	日	時刻	回収日※ 月	日	❼ 終了形態	❽ 終了日時※ 月	日	時刻	備考
S999_260519_A	11	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	A	5	19	15:08	5	26	回収時	5	26	14:10	
S999_260519_B	11	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	B	5	19	14:45	5	26	回収前に終了	5	22	12:05	5月の地点Cは未調査
S999_260715_A	22	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	A	7	15	9:59	8	31	回収時	8	31	18:00	
S999_260715_B	38	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	B	7	15	10:11	8	31	回収前に終了	8	20	10:45	7月の地点Cは未調査
S999_260921_A	20	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	A	9	21	9:25	11	12	回収時	11	12	10:20	
S999_260921_B	48	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	B	9	21	9:48	11	12	回収時	11	12	10:35	
S999_260921_C	21	第5期ｶﾒﾗ:Ltl-6210WMC	C	9	25	10:00	11	12	回収時	11	12	10:45	

【カメラ設置データ】シートへの入力例

結果の活用事例

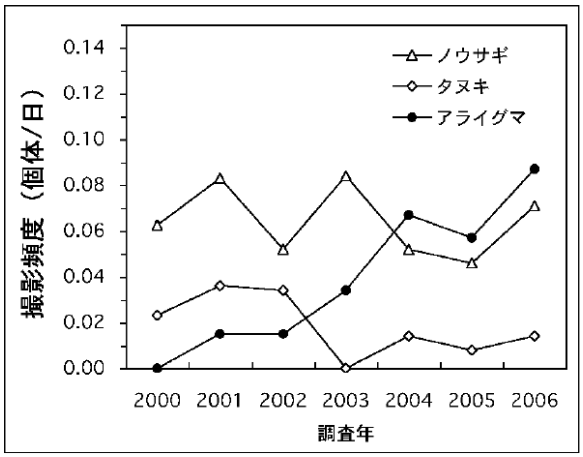
将来的には調査員の皆さんからいただいた調査結果を次のように活用することが可能です。長期モニタリング調査では、同じ場所で続けて調査をすることが大切です。無理せず、楽しく続けてください。

サイトごとの解析



哺乳類３種の、定点 A～E での撮影頻度の比較

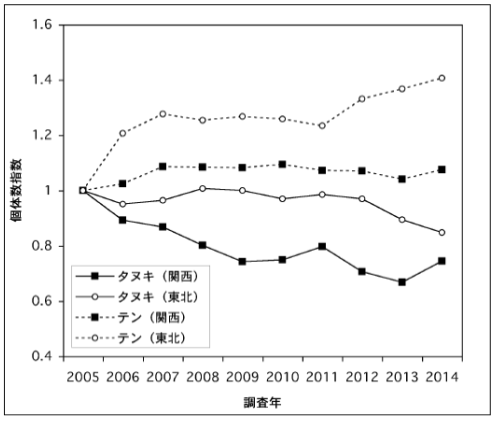
※どの調査地点も同じような出現パターンを示し、特に地点 E では３種とも出現頻度が高いことがわかります。タヌキとアライグマは同じような場所を利用しているのかもしれません。



哺乳類３種の撮影頻度の経年変化

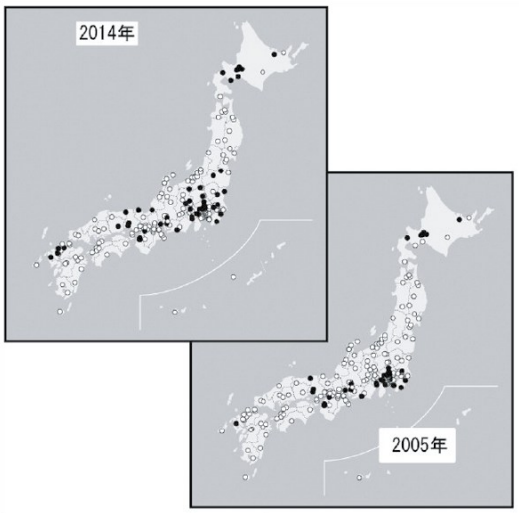
※2001 年にアライグマが初めて確認され、撮影頻度が増加しています。2003 年からのタヌキの撮影頻度の減少は、この影響なのかもしれません。

全国レベルでの解析



タヌキおよびテンの個体数指数の推移
（縦軸の指数は、初年度を１としたときの相対的な撮影頻度を表す）

※ 東北と関西で変化の傾向に大きな違いがあります。土地利用の変化に地域差があるのかもしれません。



アライグマが確認されたサイトの分布の変化

※ 10 年間で、関東・関西を中心にアライグマの分布域が拡大していることがわかります。一方で、分布が縮小している県もあり、駆除管理の効果が現れているのかもしれません。

中・大型哺乳類調査で確認される可能性のある
外来種・野外逸出種の分布状況

科名	種名	外来生物法指定	分布状況	原産地域
ハリネズミ科	アムールハリネズミ	○	神奈川県・静岡県で定着情報あり	ユーラシア東部
	ナミハリネズミ	○	不明	ヨーロッパ
オナガザル科	タイワンザル	○	伊豆大島、紀伊半島で野生化が確認されている。下北半島のものは交雑個体を残して根絶済み。	台湾
	アカゲザル	○	房総半島での定着が確認されている	東南アジア、東アジア
	カニクイザル	○	逃亡個体の目撃例はあるが、定着は確認されていない	東南アジア
ウサギ科	カイウサギ		複数の離島で定着確認。ペットとしても流通しており逸出個体が定着する可能性がある	ヨーロッパ
リス科	キタリス（エゾリスを除く）	○	**ペットとして流通しており、逸出した個体が定着する可能性がある**	ヨーロッパ・ロシア・中国東北部・朝鮮半島
	タイワンリス	○	神奈川、静岡、岐阜、大阪、兵庫、和歌山、長崎、大分などで定着が確認されている	台湾
	プレーリードッグ類		ペットとして流通しており逸出個体が定着する可能性がある	北米
ネズミ科	マスクラット	○	江戸川流域で定着が確認されている	北米
ヌートリア科	ヌートリア	○	中部地方を中心に、香川県、近畿・中部・関東地方で捕獲や目撃情報がある	南米
アライグマ科	アライグマ	○	北海道・関東・関西・北九州を中心に定着地域が拡大しつつある	北米
	カニクイアライグマ	○	不明	中南米
イヌ科	イヌ		ペット由来のものが全国各地で野生化	
イタチ科	フェレット		ペットとして流通しており逸出個体が定着する可能性がある	ヨーロッパ
	チョウセンイタチ		九州・四国および本州の中部地方以西で定着が確認されている	ロシア・中国・朝鮮半島・台湾・対馬
	アメリカミンク	○	養殖目的の個体に由来する個体の定着が北海道で広く確認されている	北米
ジャコウネコ科	ハクビシン		本州・四国にかけて広く定着が確認されている	東南アジア，中国，台湾
	ジャワマングース	○	沖縄等および奄美大島で定着が確認されている	アラビア北部から中国南部，東南アジア
ネコ科	ネコ		ペット由来のものが全国各地で野生化	
ウマ科	ウマ		家畜由来のものが全国各地で野生化	
イノシシ科	イノブタ		ブタとイノシシの交雑種。全国各地で野生化	
シカ科	キョン	○	千葉県南部で定着が確認されている	中国東部・台湾
	マリアナジカ	○	小笠原で過去に野生化し、現在は絶滅	フィリピン
	タイワンジカ	○	和歌山県の友が島などで定着が確認されている	台湾
ウシ科	ウシ		家畜由来のものが全国各地で野生化	
	ヤギ		家畜由来のものが離島を中心に野生化	

※「外来種ハンドブック（日本生態学会　2000）」、
「侵入生物データベース（国立環境研究所：http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/index.html）」などを元に作成。

モニタリングサイト 1000 里地
調査マニュアル ver.5.0

2026 年 11 月 発行

※本マニュアルは、モニタリングサイト 1000 里地調査検討委員会において、モニタリングサイト 1000 里地調査写真活用作業部会、加古敦子氏の協力を得て作成したものです。

公益財団法人 日本自然保護協会

〒 104-0033　東京都中央区新川 1 -16-10　ミトヨビル 2 階

電話：03-3553-4101　　FAX:03-3553-0139

環境省自然環境局 生物多様性センター

〒 403-0005　山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597- 1

※本マニュアルの著作権は 環境省 および (公財)日本自然保護協会に帰属します。